

ビエウロウ
夫 人 の

フレールベル追懷録

S K 生 譯

十二 アルテンスタインに於ける子供の祭禮(つゞき)

次に示す歌より更に多く子供の理解に適當なものは滅多にありません。

白い雪はふうわりふうわりと降つて来る、

野原は蔽はれ、草の實は守られる、

青い小草も心持よげに眠る、

やがてそれは芽を出すだらう、私に又あなたに、

雪の解け去る時、種子は頭をもちあげる、

その眠りはもう終つた——草は牧場を蔽

ふ、莖は高く延び、足穂は空に波を描く、——

されば我が子もいとほしく麗しく育つであらう。

母鳥は繁つた垣に巢を作る、
美しい巢の中に二つの卵が生れる、

小さい仔鳥等が殻を破つて出る時、

母鳥は翼を延べて仔鳥等をはぐくむ、

程なく仔鳥等はすこやかに育ち母鳥とうち連れて飛びまわる。

而て懐しい父鳥のやさしい歌聲に聞惚れる。

子供のサークルは腕や指を以てこの歌のバント

マイムを演じます、先づ降る雪の真似、續いて一面

にひろがつて居る雪の蔽ひの真似、それから芽を

出して来る種子、穀物の莖の延び行くさま、足穂

のうなだれる有様——子供は自分達の頭を下げて

之を示します、——などを演ずるのであります。小

さい子供達は指の動作、子供の手の體操的練習の
伴ふ飾氣の無い歌を喜んで聞きます。

それから母親は子供の小さい手と組合せて鳥の
巢を拵へながら次のやうに歌ひます。――

嫩い緑の枝の上に

母鳥は巢をつくる、

而してその中に二つの卵を落す。

仔鳥等の生れたその時は

母鳥は翼をひろげる

仔鳥等を心地よく温かにしてやるために。

やがて仔鳥等は叫ぶ、

「母ちゃん、母ちゃん、ビィ、ビィ、

もう歌を教へて下さつてもよいでせう。」

そこで鳥等は木の上で歌ふ

太陽は温く照らし、

ウィラーは私と一緒にその聲に聞取れる。

這麼風に子供の自然觀察を伴うて居る子供らし
い唱歌は全く必要なものであります。理解のない
批評家に對しては私達はジャン、ポールの「少年
期のやさしき花に近づく勿れ、汝の粗き拳を以て
花の埃を拂ふ勿れ、といふ言葉を引用しなければ
なりません。

フレーベルの遊戲の大部分のものが子供の心に
適合したものであるといふことの一番いゝ證據は
大きい子供といはず小さい子供といはず幾度とな
く是等の遊戲を行うて尙且その悦びを失はないと
いふことであります。成人した若い娘（保姆であ
ると否とに係らず）又は更に多く年を取つて居る
人々でも子供の悦びに對する感受性を持つかぎり
は子供と一緒に又は子供の中へ交つて大變喜んで
是等の遊戲を練習します。何處の保姆養成所もこ
のことの眞なることを裏書いたします。

アルテンスタインの祭禮に於ける子供の大群を
見て深い感激に打たれないものがありませんか、

又純なる仁慈的でないものによつて誰が感情を動かし得ませうぞ。

或る人は「これは情に訴へる光景です、子供達は本當にうれしさうに遊んでゐますこと」と言ひました。

又或る人は「さうです、フレイベルさんは子供を如何して運動させるかといふことを知つて居るのです、全くそれに違ひありません」と言ひました。

又他の人は「これは悅しい」と言ひました。

孫を連れて來てゐたしつかりした丈夫さうな農夫が「何でもあらゆるものを美しくすることを知つてゐる子供扱ひ手の一人を御覽なさい」と言ひました。

几帳面な陸軍大尉は「若しすべての子供が斯ういふ體操遊戲を受けて來ると新兵の訓練は本當に愉快なものとなるでせう」と言ひました。

リーペンスタインの浴客である一人の婦人は眼

に涙を浮かべながらフレイベルに「私は今までにこの子供の遊戲のやうに私を感激させるものを見たことがありません、まるで教會へ行つて居るやうでした、

それは丁度それほど獻身的に響いたのです」と言ひました。

フレイベルは「さうです、これが子供を否大人をも祝福し且つ向上せしむる遊戲の統一力であり、人間の眞の悦びは神の尊崇に他なりません、何故ならばそれは神によつて命せられて居るからであります」と答へました。

休憩を取るために中止がありました、子供達は用意された食物を食ふために立木のある芝生の堤の上にひろがりました、大人もこの仲間へ入りました、而して子供と同じやうに喜んで物を食べました、この休憩中止が終つて皆が新しい遊戲の仕度に取り掛つた時に公爵家の方々がお見えになりました。私はお迎へするためにミツテンドルフとフ

レーベルとを呼びました、二人は汗を流しながら此方へ來ました、二人の顔には悦びが輝いて居りました。

公爵夫人は「この幸福な子供の群れは何といふ美しい眺めでせう、けれどもあなたは遊戯の指圖にあまり働きすぎます、私達と一緒に坐つて休みませんか」といひながら公子達のために設けられてゐた場所の方を指されました。

レーベルは怒つたやうに「いゝえ、それはいいません、私は子供達の方へ戻らなくつてはなりません、少しも疲れては居りません、遊ぶことは私に活氣をつけ又私を若くしてくれるのです」

公爵は「子供と遊ぶことはあなた位の年齢になるとそんなに樂なものではない」と言はれました。

ミツテンドルフは「レーベルは何時まででも若くつてゐられる祕訣を發見いたして居ります。子供達と一緒に居りますと誰でも清新な氣を保つてゐられます、而して老人になることはありません」

と言ひました。

而してこの若々しい老人は遊んで居る子供達のサークルへ歸つて行きました、二人は絶えず此サークルに指圖を與へて居りました、二人の鋭い視力は子供全體の上に注がれて居たのであります。

九才になられる幼い公女が非常に熱心に遊戯を見て居られました、而して私の眼からは公女が自分もその仲間へ入りたいとあこがれの眼を以て遊戯を眺めて居られるやうに見えたのであります。

この公女はレーベルの仕事を全然知らないではありませんでした、何故ならば公女はレピン嬢によつて仕事の内のあるもの、殊に織物を教へられて居たからであります。

上流の子供は幼い頃から自分達を最幸福にしてくれるものを持たずに濟まさなくてはなりません——つまり同年輩の仲間と交つて幼い友垣を作ることが出來ないのであります、彼等は滅多に斯ういふ仲間を得ることは出來ません、下流の子供達

の持つて居る抑制されない自由といふものは彼等には何時も缺けて居るのであります。彼等が一般に教育に於て有して居る便宜といふものは概してそれに附隨して居る不便宜に立優るものではありません、傳襲的な世界に於ては子供時代の全幸福は滅多に享樂せらるゝものではありません。

遊戯が終つて後、公族は會衆の誰彼と愛想のいい談話を交されて運動場をお立ちになりました。

子供の團體は歸宅する元氣を得るために又休憩しました、小さい子供達の中には兩親に負れて行かなければならないなどといふものもありました。

隊伍が整へられた時彼等は先づ公爵のお城の前へ連れて行かれました、それは彼等が受けた厚意及び祭禮のために貸し與へられた場所のお禮として感謝の歌を捧げ唱ふためでありました。

彼等はそれからアルテンスタインの下方の數本の美しい古菩提樹の下の或る地點に達しました、路は此所から諸方へ分れて居りました、サルツン

ゲルスの花環で飾つた車は幼いお客様達を連れ戻るべく其處に控えて居りました。

けれども子供達は彼等の行手に進み出づる前に再び休憩すべく餘儀なくされました、而してミツテンドルフはこの時間を利用して數語の祈禱を行いました。彼は皆によく聞えるやうに菩提樹の下に据ゑてあつた石榻の上にあがりました。而して彼の衷心から獨得の熱誠を以て子供達及びその兩親達に話しかけました。彼は子供達に（大きい子供達は彼の言ふことをよく理解しました）樂しかつた今日の日のために彼等の兩親に感謝しなければならぬこと及び將來の學校に於ける勵精及び家庭に於ける従順と愛とによつて再び斯る會合の開かれることに値打しなければならぬことを話しました。

その後で彼は兩親達に「いざ、子供等と共に生活せしめよ、地上に於てすべてのものが更によきものとなるために」といふフレーベルの提言を述

べてその意味を彼等に説明しました。

其他種々なことを述べた内に彼は次のやうなことを言ひました。

「神様のお思召によつて人間種族が生活の於高き階段にのぼるべき時が今や到来しました、斯る時に於ては丁度今の場合に於けるが如くすべての人の心に及び外的の生活に既に大なる運動が起つて居るのであります、かるが故に今や各人が惡を滅

亡せしめて善のために自由な通路を開いてやるやうに心掛けることが最適當なことであります。

先づ第一に爲さるべきことは子供達の善き教育によつて更に善き人を作ることであり、それ故フレーベルは、子供等を通して未來に處する現下の大問題を解くべく、彼の同時代の人々に子供達と共に生活するやうにと要求するのであります。「フレーベルは幼稚園に於て失はれたるバラダイスを再び得たのであります、子供達はこの樂土に於て極力惡から防護されます、而して彼等の能力

と性癖との調和的發達によつて有徳の男女となるやうに仕込まれます、子供らしい無邪氣さはホンの生れたての少しばかりの間にのみ屬して居るのであります。それ故子供達は極く最初から庇護されねばなりません、而してそれは母親の仕事であります。けれどもすべての母親及び處女は純美なる人間生活が繁榮してゆくために幼稚園の建設と管理とに盡力すべきであります。

「今日の子供祭は子供のバラダイスの一面を示しました、一同はよく是を覺えてゐて神様の思召である所の時代の要求に従はふではありませんか、又フレーベルの言ふやうに子供達の本當の保護者、養育者とならうではありませんか、」

聽衆は非常に靜肅にミツテンドルフの言葉に耳を傾けて居りました、此處彼處にゐた數名の母親は低い聲で啜り泣いて居りました、彼が語り終つた時に一同の者は彼の所に又フレーベルの所に殺到して二人の手を取り彼等の溫き感謝を現しまし

た。總ての手は握られました。而して同意と善き希望との外には何物も聞かれませんでした。

或る村の老婦人は「ミツテンドルフさんは實にお上手にお話なさいます、まるで救主が物語られて居るやうです」と言ひました。

遠隔の地からリーベンスタインへ入湯に来てゐた或る人は「この祭禮の時に居合せたのは實に幸福です」と言ひ、他の人は「私達の、地方にも斯る會合が起されるといゝな」と言ひました。

「神様のおめぐみは斯る日に下されるものです」と老農夫が言ひました、而して深く感激して、フレーベルの手を握りました、フレーベルは晴れがましい顔をして子供達を眺めて居りました——彼は普遍的となるべき習慣の模範即この日の祭禮によつて彼の所謂「人性の本に芽んだ新しい荅」の開花を促進せしめたやうに感じました。

私達は今や解散しました、その時皆のものはもう一度子供達の閉會の歌「友よ、いざや別れん」

や「又會ふ日まで、いざさらば」を繰返しました。この祭禮に就てフレーベルの書いた記録は次の文字によつて終つて居ります。

「然り、そは自然と人と神との相結びし祭禮なりき、而して一老農夫の云へるが如く神のめぐみは斯る日に下されたり、斯る幼年及び少年の祭禮は如何に容易く普遍的なる人民の祭禮となり得べきことよ、吾人は斯る祭禮を生活の中に入取るべくあらゆることを爲さむや、斯くて吾人は遂にすべての人の衷情の希望する圓滿にして缺くる所なき「生の渾一」に達すべきなり」

子供の團體は出發しました。別れの歌の最後の解を繰返すので透き徹つた子供の聲が四方に反響しました。マリエンタルのサークルの大人が歸宅のために解散した時は太陽は將に沈まんとしてフレーベルの所謂晶體の如く明るき雄偉な落暉が懸つて居りました。一同は夏の夕の軟い月光の中に喜んで居りました、私達の風土に於ては月光は殊

に美しいのであります。宜なる哉、彼等は今や長い間懐抱してゐた思想を斯くも立派に實現させることが出来、内心に幸福を感じて、靜かに歩みつつあつたのであります。

私は遂に言ひました「お、他の子供祭は私達の試みたもの、後を追うて起るでありませう、一つが實現されたからには何故子供祭といふものが國家的なものとなされないものでせう、何故ならば、彼等は本當に美しい意味を持つて居ります、更に高い更に貴い人類とならんがための民衆の祭禮が續いて起るでありませう、而して完全な「生の渾一」の究極の到達に各應分の寄與を爲すでありませう」

私は言ひました「今日の私達の祭禮中に於て私は幾度もゲーテが「ワンデルヤール」の學校部に於て言つて居ることを思ひました、それは多くの點、殊にその言ひ現されて居る象徴的形式に於てあなたの所説と符節を合せるやうに合致して

居ります」

「さうです、私は未だゲーテの「ワンデルヤール」を讀んで居りません、讀まうとは思つて居るのですが何時も果しません、それでですから私は「ルーヤール」及びその後編を噂によつて知つて居るのみなのであります」とフレーベルは答へました。「お、それならば私達は直ちにワンデルヤールを手に入れなければなりません」と私は言ひました、「私はそれを持つて來ませう、それから埃及の古俗に就て書いた本をも持つて來ませう、私はその中にこの頃私達の教育意見の眞理なることを證する箇所を發見したのです」

私達は此所で分れました、而してミッテンドルフとも分れたのであります、ミッテンドルフは一日二日より以上カイルハウを留守にして居ることは出來ないのであります、けれども彼は秋には又訪れて來るといふ約束をしました。

私が翌日ゲーテの學校部をフレーベルに讀んで

聞かせるつもりで彼に面會に行つたとき彼は既に忙しさうに祭禮の記事を書いて居りました、けれども彼は喜んで私の讀むのを聞いてくれました、而してゲーテの教育意見とワンデルヤールの中に

あるこの教育意見の言ひ現し方とを本當に熱心に聞いて居りました。彼は屢々次のやうな子供らしい詠嘆を以て私を遮りました。「ゲーテは子供時代に於ける人間の心持を實によく理解して居ります」「新しい進展が達せらるゝためには人間の歴史の結合がしつかりと掴まなければならないといふことをゲーテも亦知つてゐます、若し子供達を未來に導いて行くつもりであるならば私達は當代の子供を過去の産物として仰がなくてはなりません」「子供はたゞシンボルを通してのみ眞理の理解及び子供自身の理解にまで導かれるのでありますそれは象徴的の活動を要求します」「身振は子供にとつて最も大なる意味を持つて居ります」などと彼は言ひました。

ゲーテも亦「學校部」に於て異つた年齢の子供の會釋の仕方に就て語つた時にこのことを認めて居ります。

實際、未來の人類の發展に對して豫言者の眼光を有してゐたゲーテは過現未に亘る人性を包含する所のフレーベルの説に一致せざるを得ないのであります、ファウスト（第二部）に於ける彼の表現「なべての物象は比喩ぞかし」はすべてのものは觀念のシンボルであるといふことを意味するものに外ならないではありませんか、ゲーテはフレーベルと同じやうに人の心の成長を助けるために眞理のシンボルが言葉より先へ行かなければならぬといふことを主張して居りました。

フレーベルは特に人類の最初の教養及び人類の最初の時期が示す事柄に係り合つて居ります、それ故それに關係のあることは何でも彼を殊に喜ばせました、私は埃及を問題として居る上記の書物に記載されてある事實に彼の注意を誘ひました。

埃及に於ては教養の最初に於て三人の優美な人即ち美の女神が互に依り合つて居る三個の立體によつて現されて居るのであります、——彼はこれを知りて寶物を發見したかのやうに悦びました。

「さア御覽なさい、私が子供の視察のために球につぐ最初の正しき形として立體を選んだといふことは全く正しいであります、埃及人はそれが自然に於ける又は結晶化に於ける團體の中で最初の正しい形であるといふことを知らなかつたのであります、けれども自然の正しい釣合のとれた形はすべての現象の基本的の形(型)でありますから自然に於てのみ發見せらるゝのであります、人が自然の子であるかぎり人はその起源の内部的の證據としてその心の内に自然の形とその法則とを持つて居ります、昔の人は真理のこの豫感を持つて居りました、我々近代の人々はそれを意識するやうになるのであります」

「私の著作に記されて居る球體に關するこの特殊の事實は屢々他人の著作の中に繰返されてゐたの

した」

私は又クロイツェルの「ジンボルク」から「若きバツカスはその教育者より玩具となすべく金の鞠を與へられたり、而して又波斯の若き王子等もこれを持ちて遊びたり、而してひとりこの特權を享有し居たり」といふ言葉を引用しました。この言葉はフレイベルを深く考へさせました、而して彼は言ひました「豫感といふものは何といふ大きな力を持つものでせう、さうです、真理の豫感に常にその認識に先立つものであります、球に於て渾一を示すことは最大なる特權であります、何故ならば神は渾一であります、而して發達してゐない人はたゞシンボルに於てのみ渾一を見ることが出来ます」

斯ういふことを話してゐた時にフレイベルの豫言者的な一面が現れて來ました、彼は人類の過去に溯つて考へて居るやうでありました、而して彼は其處に劫初からすべての時を結び合せて遙かに遠き未來、目標にまで續いて居る所の絲を探し求めて居るものゝ如くでありました。